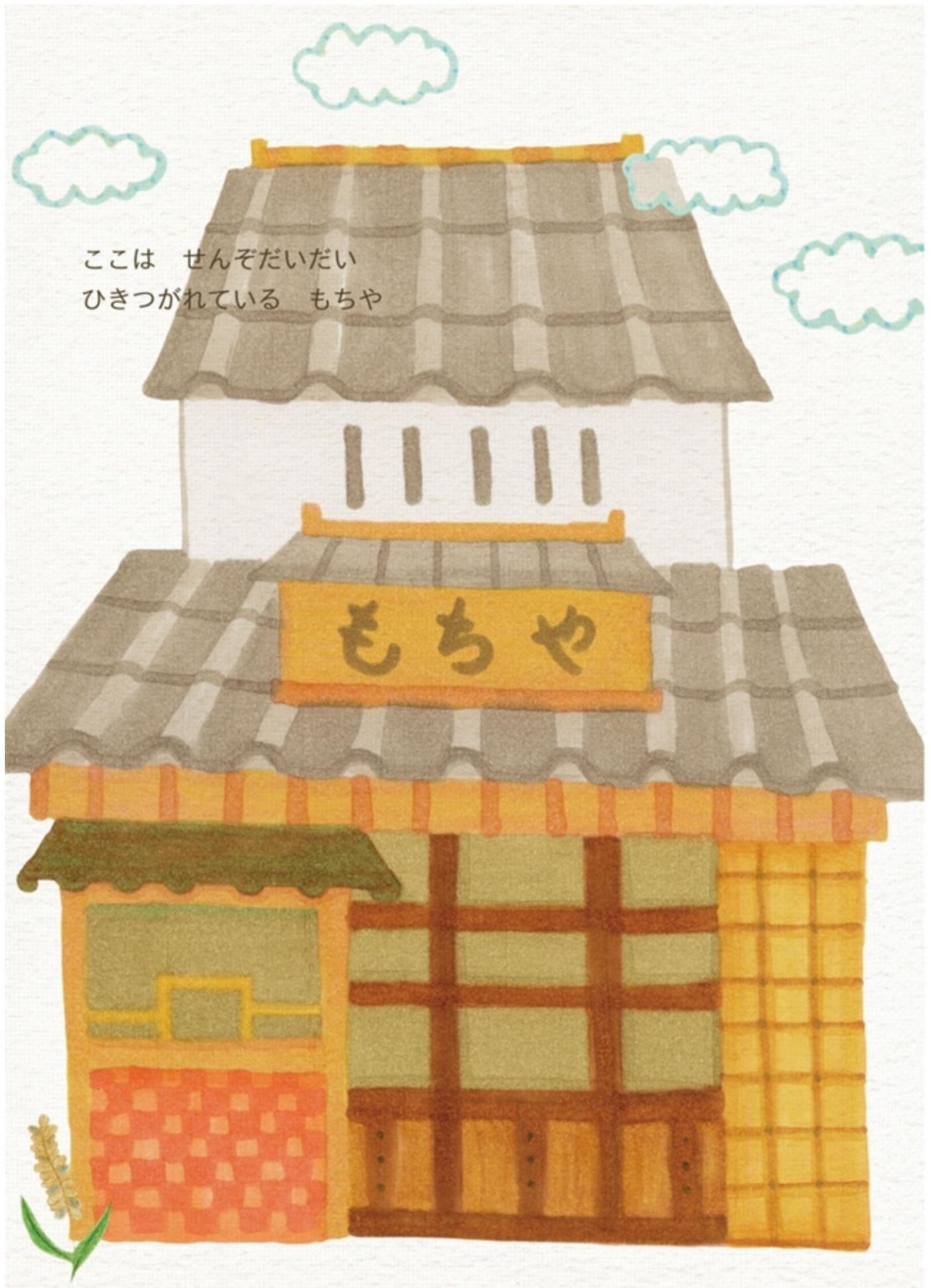


# もちの木

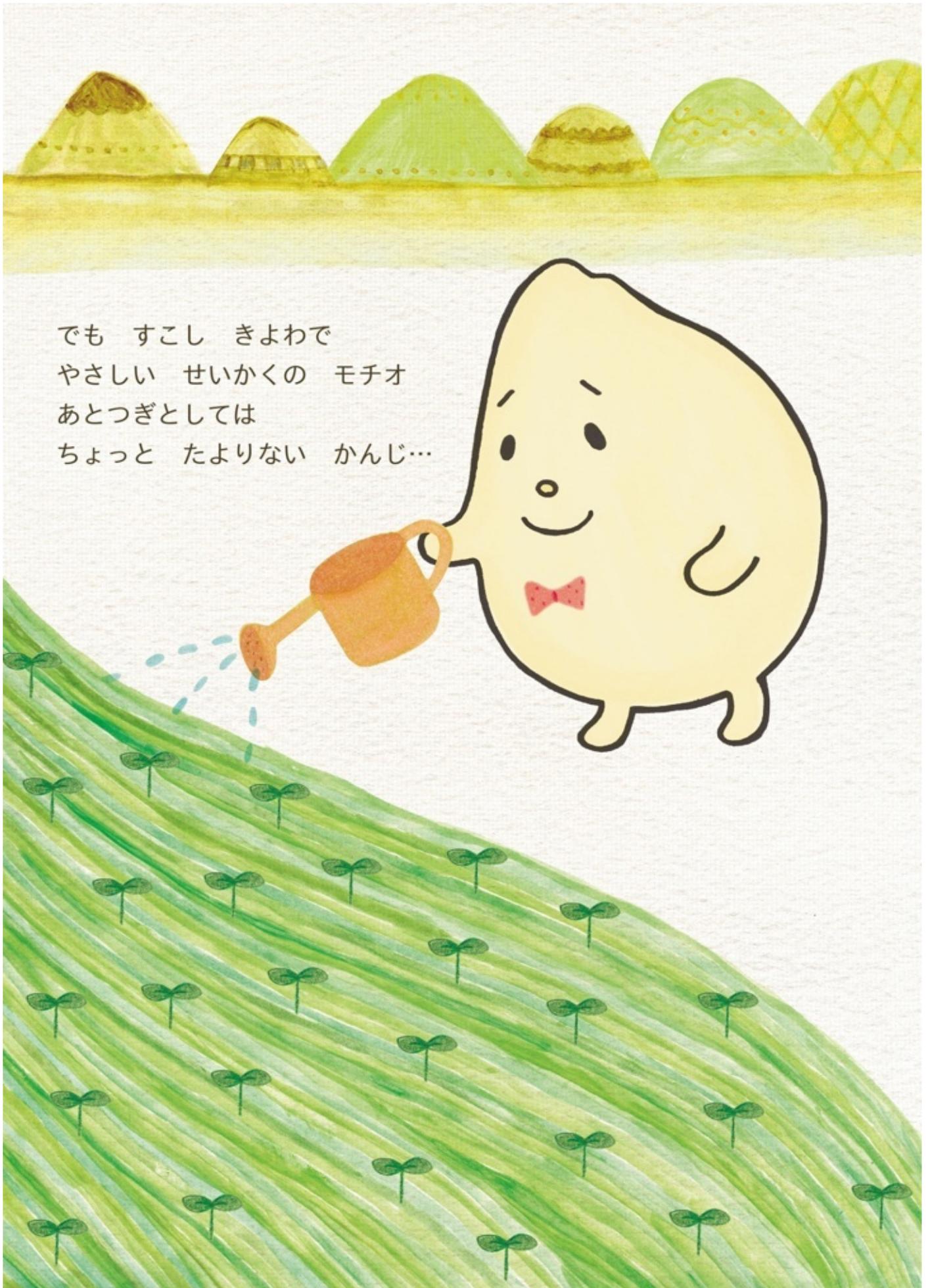


やまざきももこ





そこに うまれた モチオは  
すくすくと せいちょうし  
もちごめに なりました







「ぼくは ここですー」

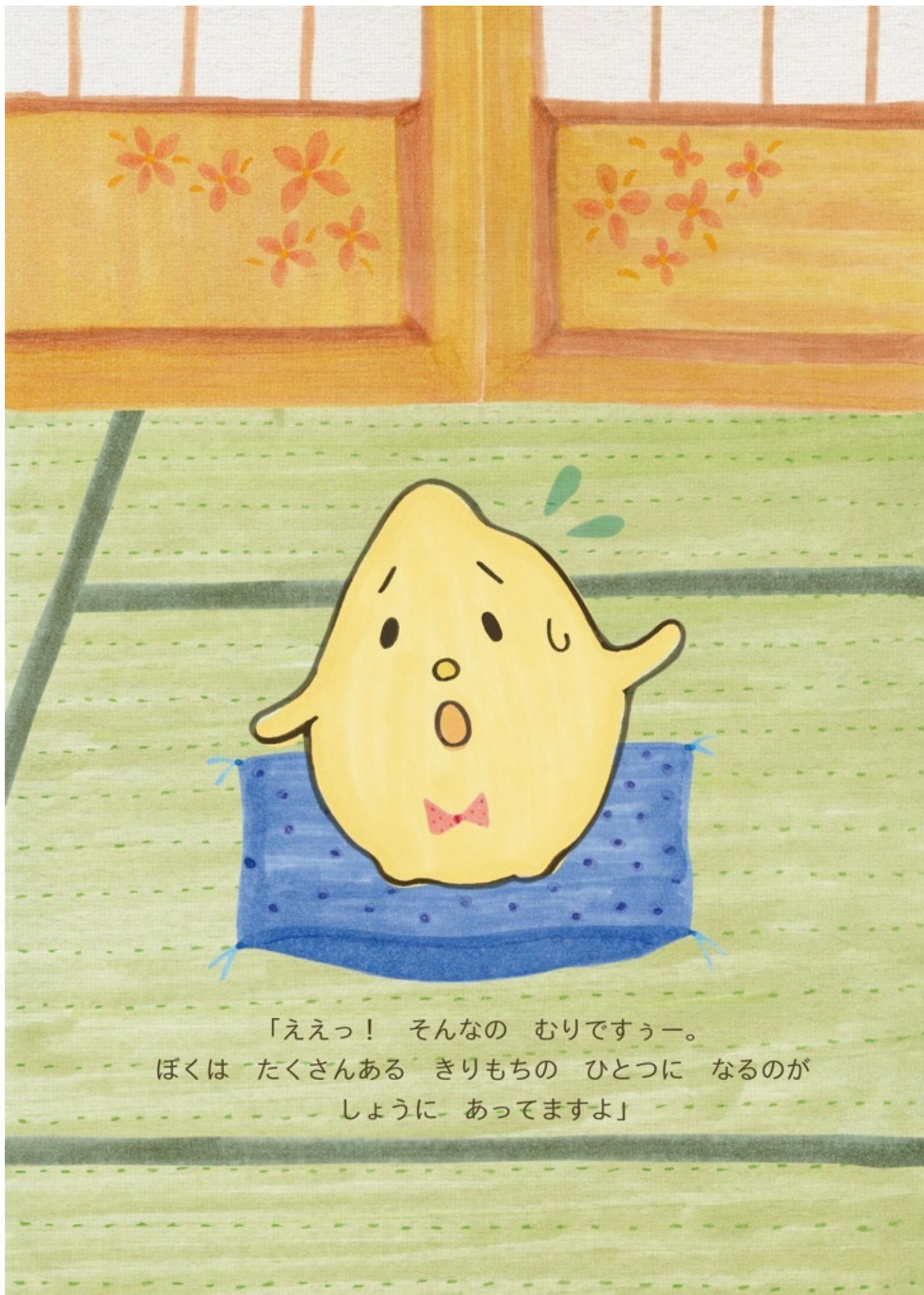
「おまえに はなしが ある  
ちょっと そこに すわりなさい！」

「うちは せんぞだいたい かがみもちになり  
このもちやを つぐのが きまりと なっておる」



「そこで おまえには このもちやの あとつぎとして  
りっぱな かがみもちになって もらうために  
しゅぎょうに でてもらおう！」





「ええっ！ そんなの むりですー。  
ぼくは たくさんある きりもちの ひとつに なるのが  
しょうに あってますよ」





「こらあああ！ なにを ごちゃごちゃ  
いってるのじゃ！ そんな よわきで  
もちやが つげるかああ！ とにかく  
かがみもちに なるまで かえってくるな！」

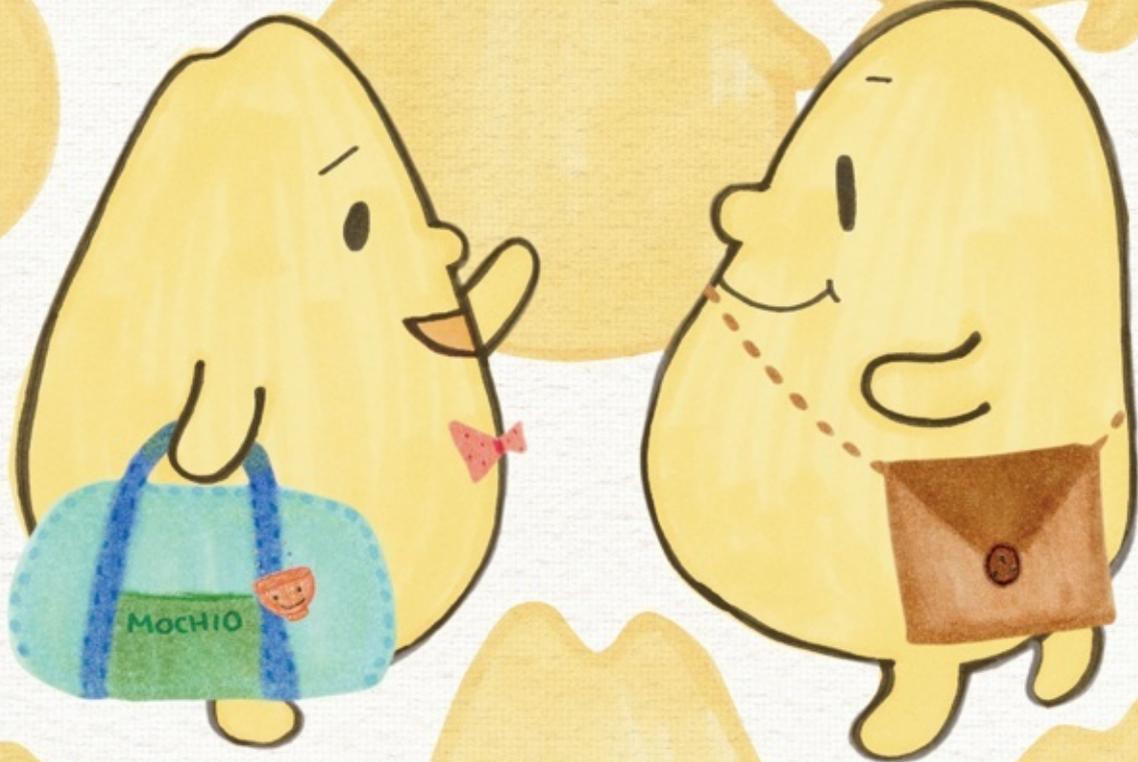
こうして モチオは  
しぶしぶ しゅぎょうへ  
でることに しました

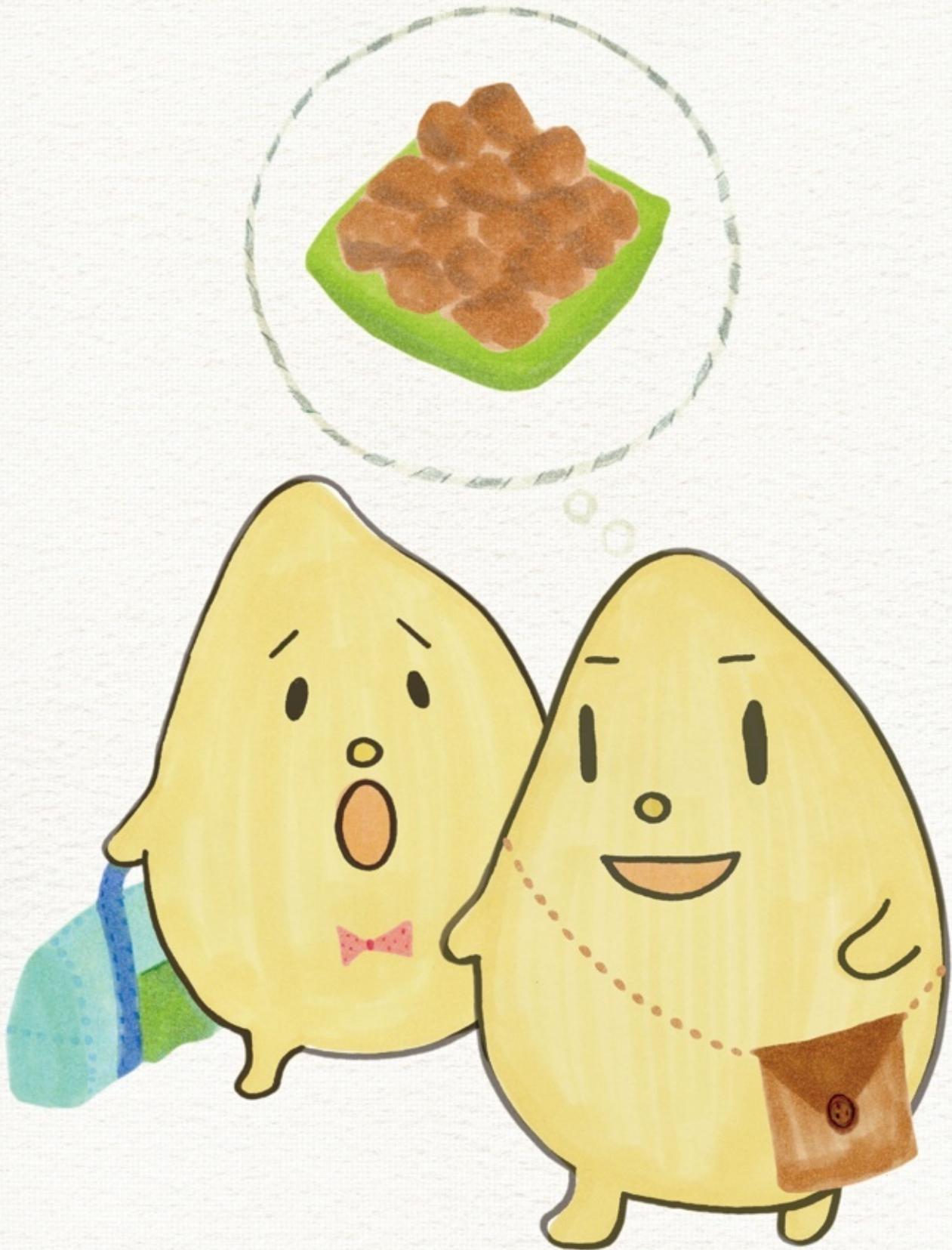




モチオが しゅうごうばしょに  
いくと すでに たくさんの  
もちごめたちが  
あつまって いました

「モチオくん！ きみも きてたんだね」  
「モチスケくんも いっしょだったんだ！」  
モチスケくんは モチオの おさななじみ  
モチオは ちょっと ホッと しました

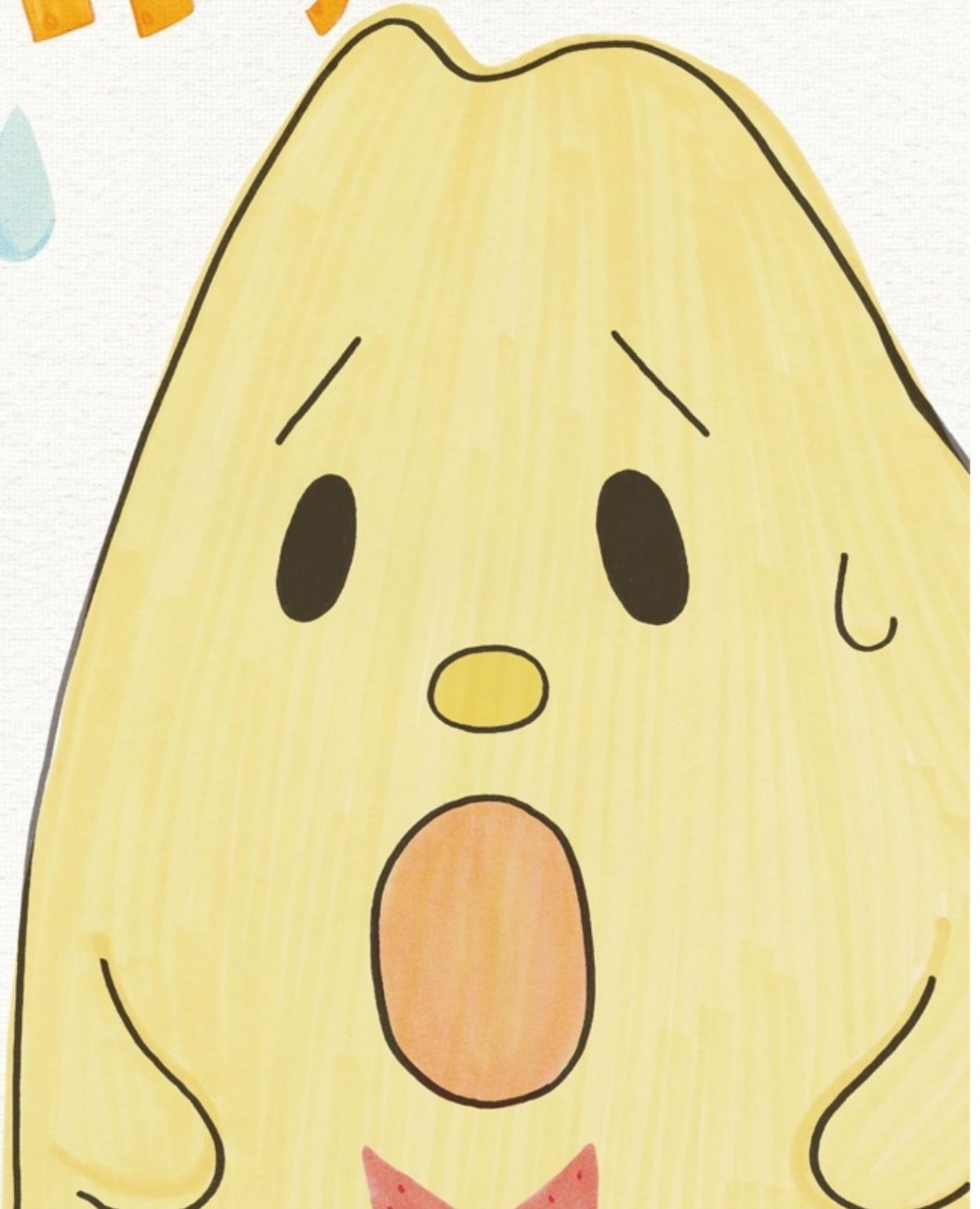


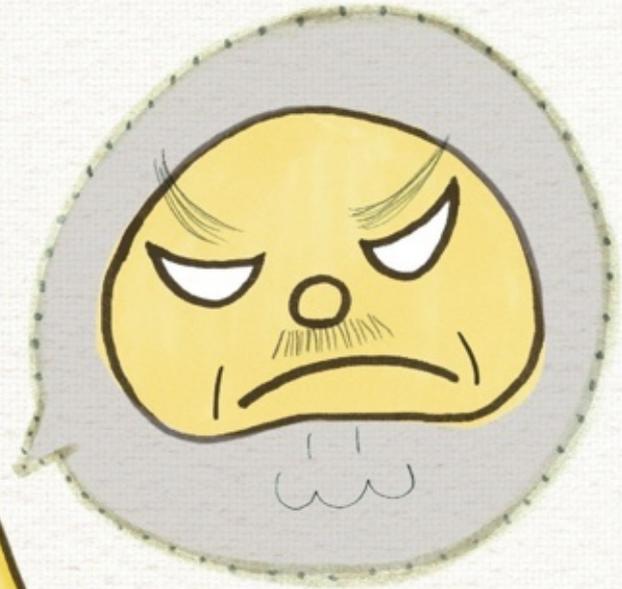


「モチスケくんは なにに なりたいの？」  
「ぼくは スーパーで うられる おいしい おかきかな  
モチオくんは？」

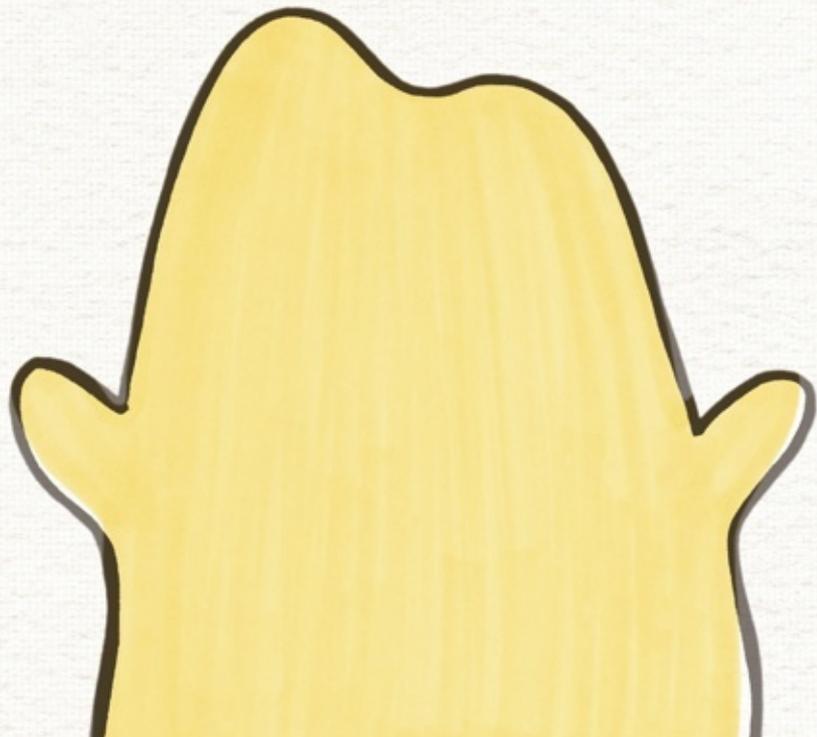
かがみもち

「ぼっ ぼくは、、、 か、かがみもち ですう」

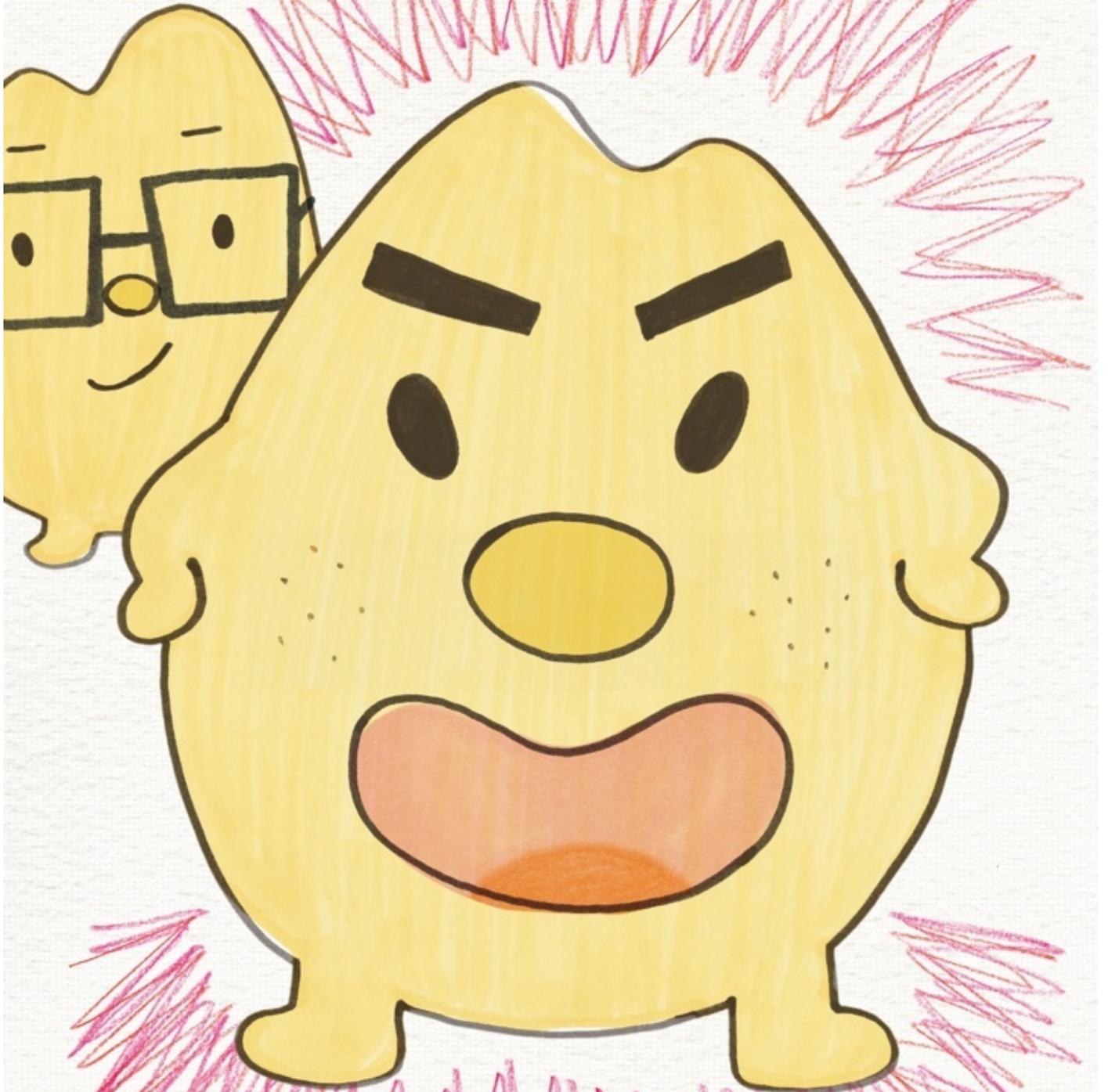




「モチオくん すごい じゃない！」  
「いやいや ぼくの いえは  
もちやだから おとうさんや  
おかあさんが うるさくって…」



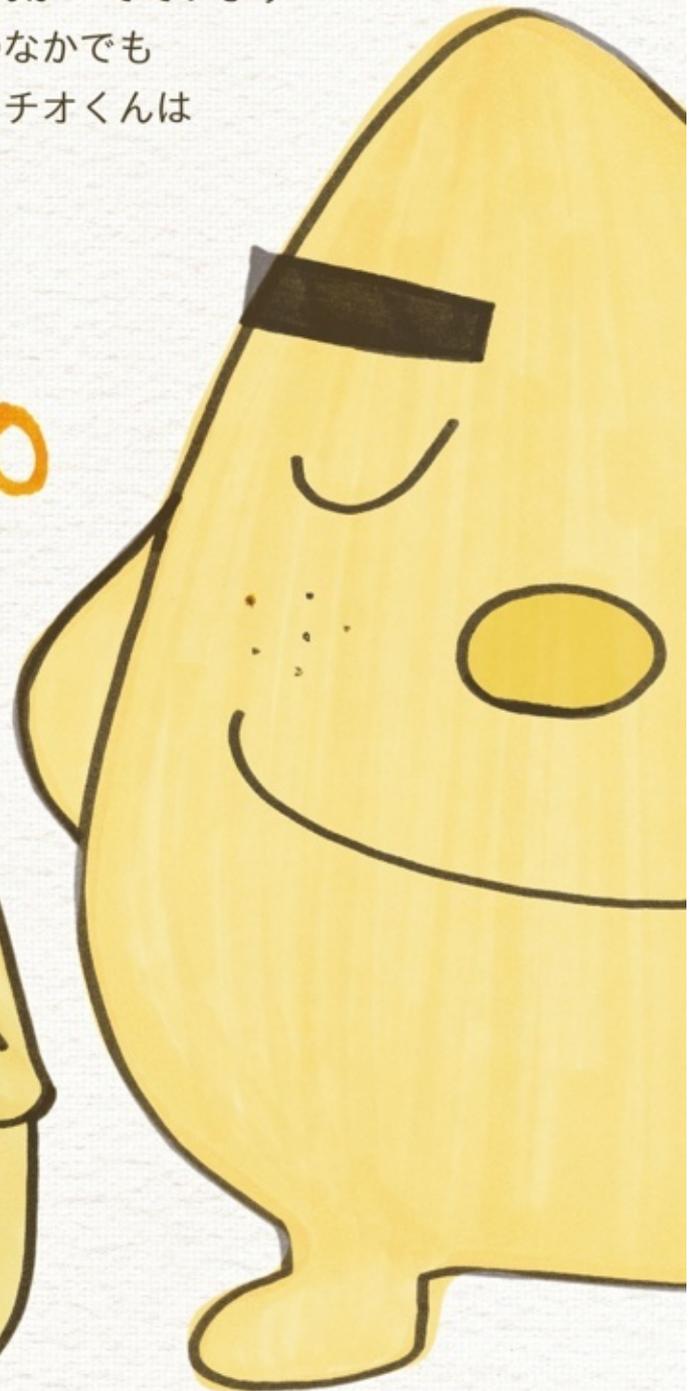
はなしを きいていた ガキだいしょうの  
モチゾウと モチヘイクんが やってきました



「モチオが かがみもちだと! ?  
そんなの むりに きまってるわい!!」

「われわれ もちごめが かがみもちに なるの かのうせいは  
1 / 20,000 という けいさんが できています  
よって おおくの もちごめのなかでも  
よわむしで おくびょうな モチオくんは  
とうてい むりでしょう」

1 / 20,000





そう いった モチゾウは モチオを  
いきおいよく つきとばしました



「やめなさい！ どんな ゆめを みたって いいじゃない  
みんな なにかに なりたいって おもうきもちが じゆうよっ」





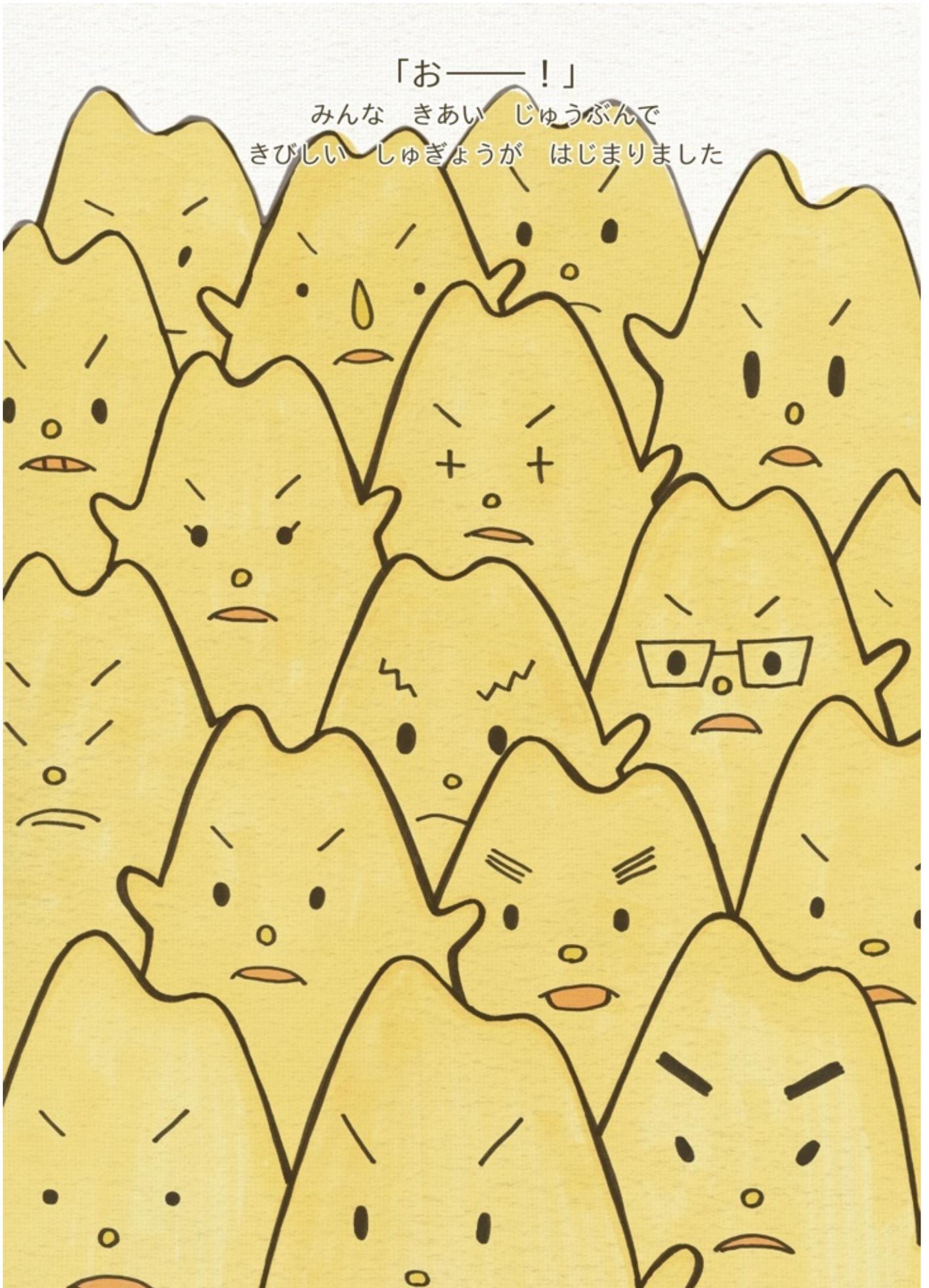
「モチミちゃん ありがとう…」  
モチオは どんどん ふあんに なって きました



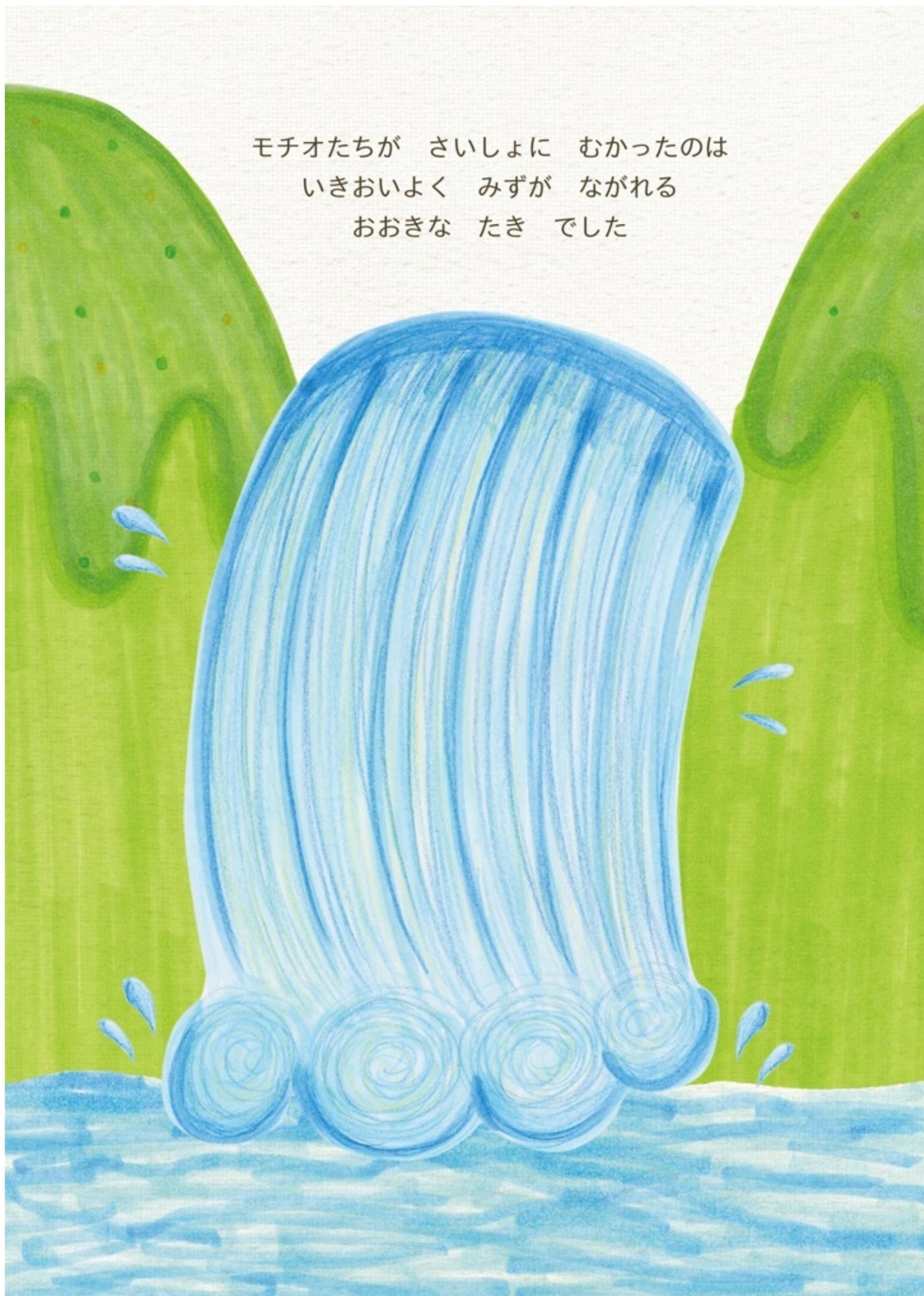
「ゴホン！ みなのもの せいしゅくに！  
これから おまえたちには たくさんの  
しれんが まちうけておる どんなことが あっても  
けっして あきらめては ならんぞ」

「お——！」

みんな きあい じゅうぶんで  
きびしい しゅぎょうが はじまりました



モチオたちが さいしょに むかったのは  
いきおいよく みずが ながれる  
おおきな たき でした



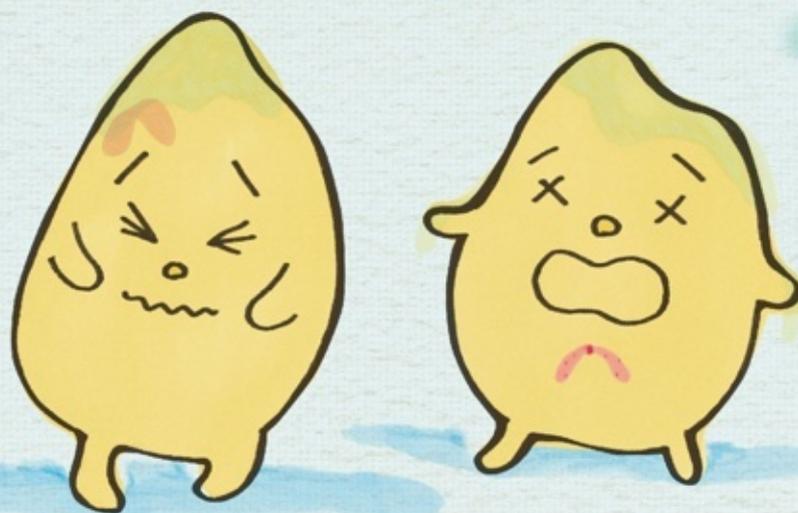
「ううっ こんなところに はいるだなんて むりだよ」  
「ほくも およげない。。。」  
モチオと モチスケは たきのまえて たちすくんでいました



すると たきのなかで モチミちゃんが  
くるしそうに しています



モチオは あわてて モチミちゃんを たすけようと  
たきに とびこみましたが、たすけるどころか  
じぶんも くるしくなって まえが みえません



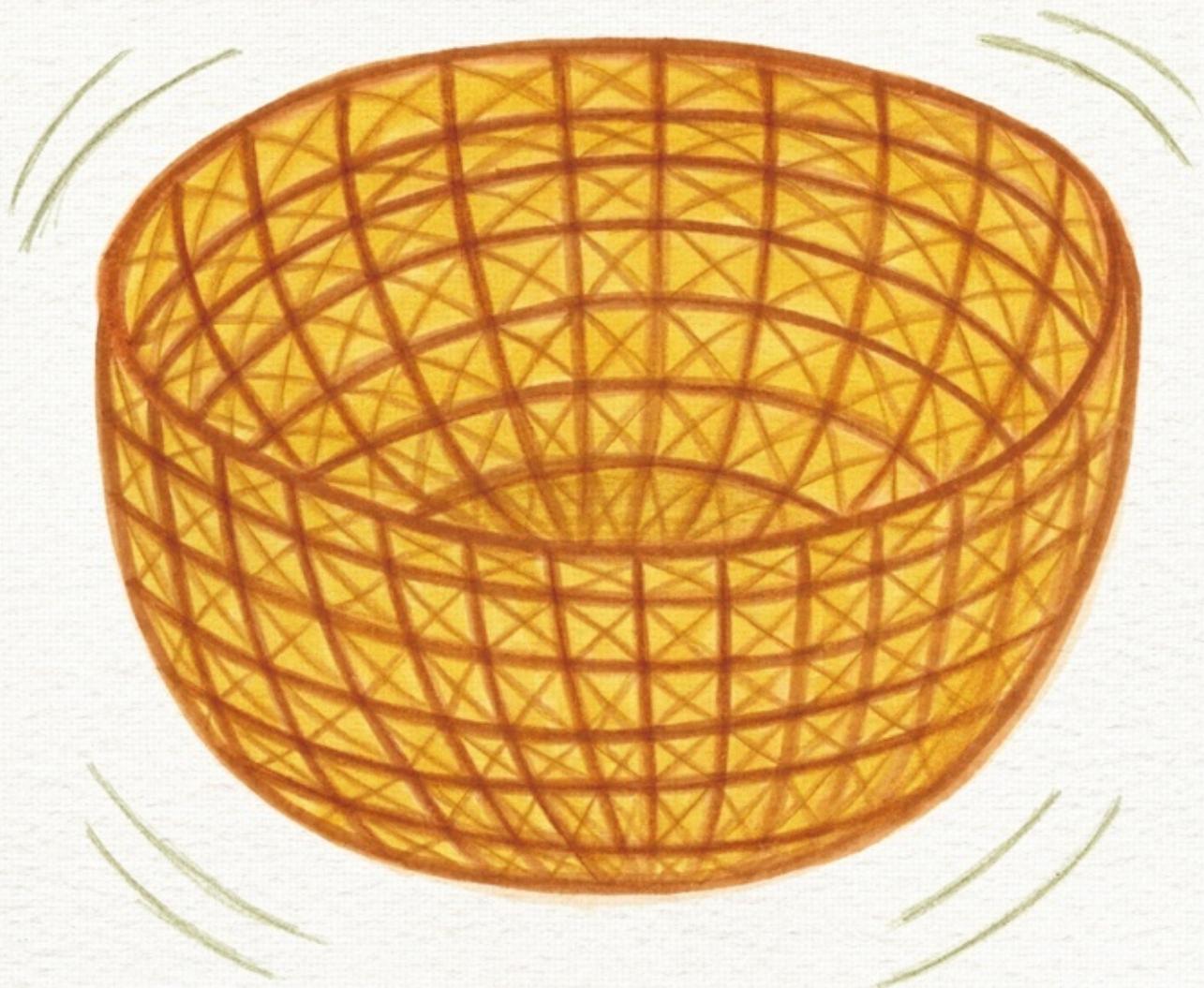
「はっはっは やっぱり おまえは ダメだな」  
そこには いつのまにか モチミを かかえた  
モチゾウが たっています



モチミも たすけられず  
モチオも たすけられてしまう ハメに  
むなしく からだに ついた みずが  
したたり おちます



「どうぞ、ぼくなんか…」



「ゴホン！ つぎの しれんは  
そのなも かいてんしき ザルマシーン  
このおおきな ザルのなかには  
はいつて からだについた  
みずを おとすのじゃ」





モチオは さっきの しっぱいを  
とりもどそうと ザルのなか  
おもいきって とびこみました

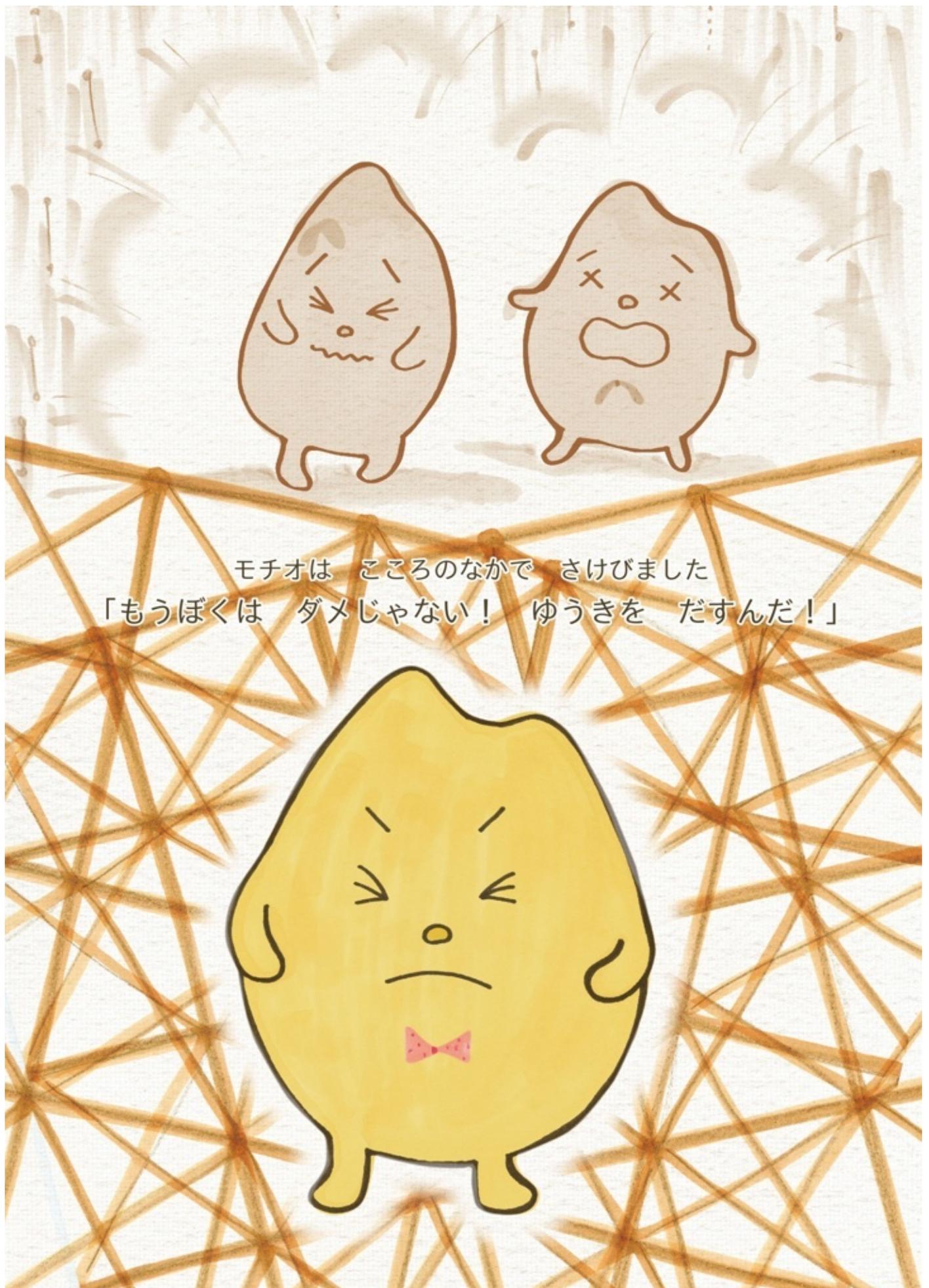
ぐるぐるぐるぐる もちごめたちは まわされ  
からだについた みずが おとされて いきます



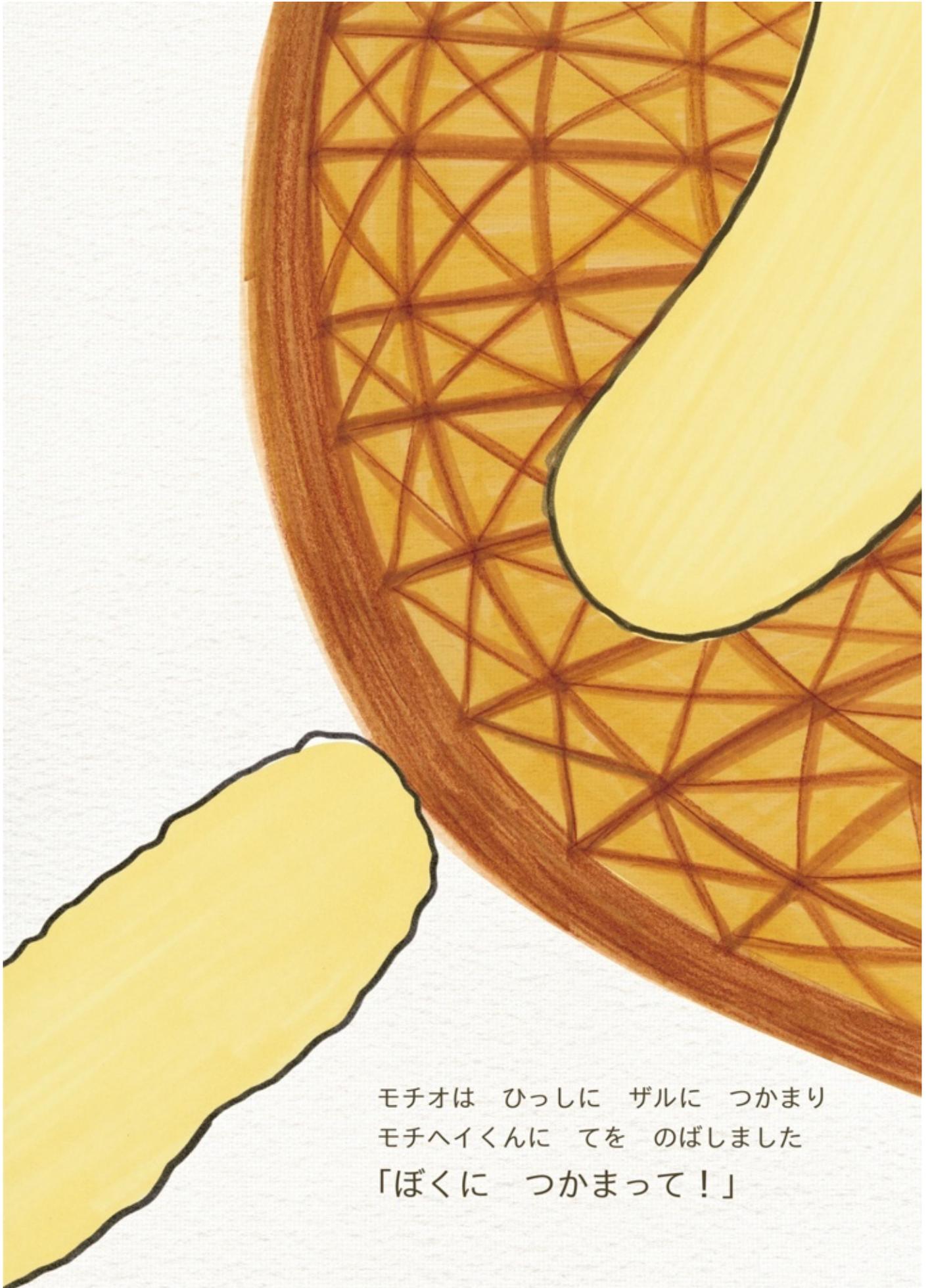
そのとき ザルのはじで  
ふりおとされそうに なっている  
モチヘイクんが いました

「たすけてくださいいいい！」



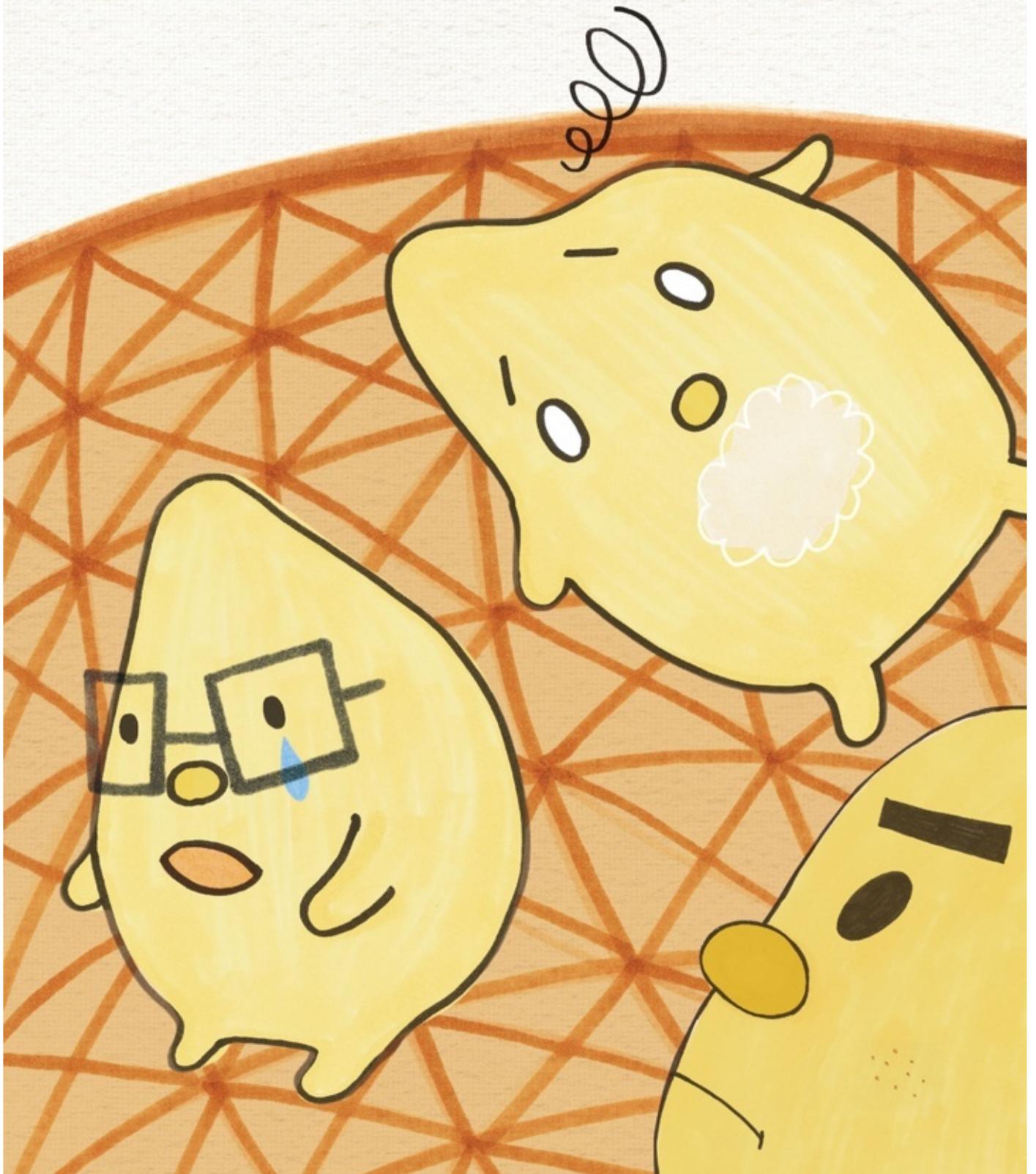


モチオは ころろのなかで さげびました  
「もうぼくは ダメじゃない！ ゆうきを だすんだ！」

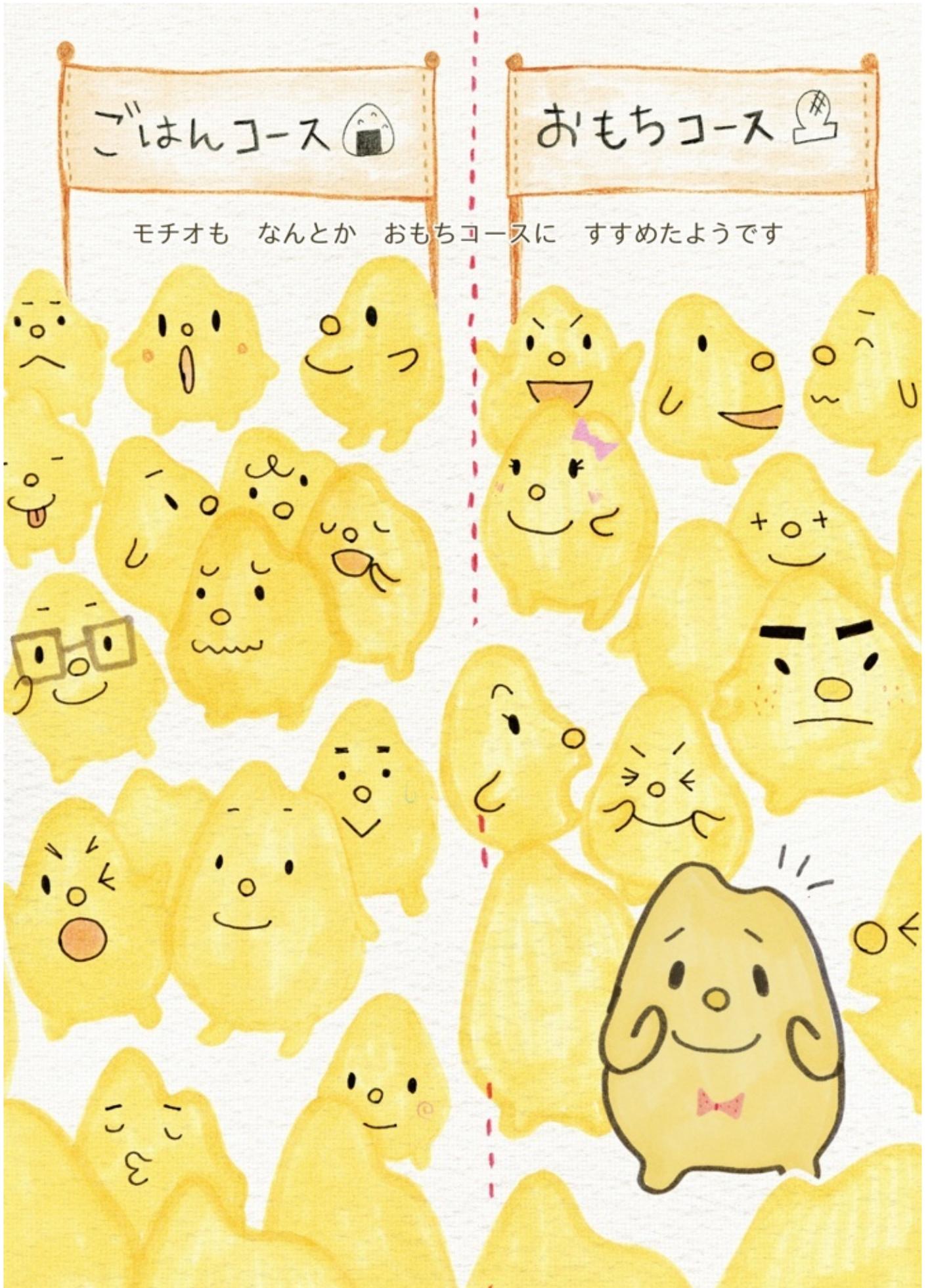


モチオは ひっしに ザルに つかまり  
モチヘイクんに てを のぼしました  
「ぼくに つかまって！」

「ありがとう おかげで いのちびろい しました  
まさか このぼくが こんな けいさんミスをするなんて」

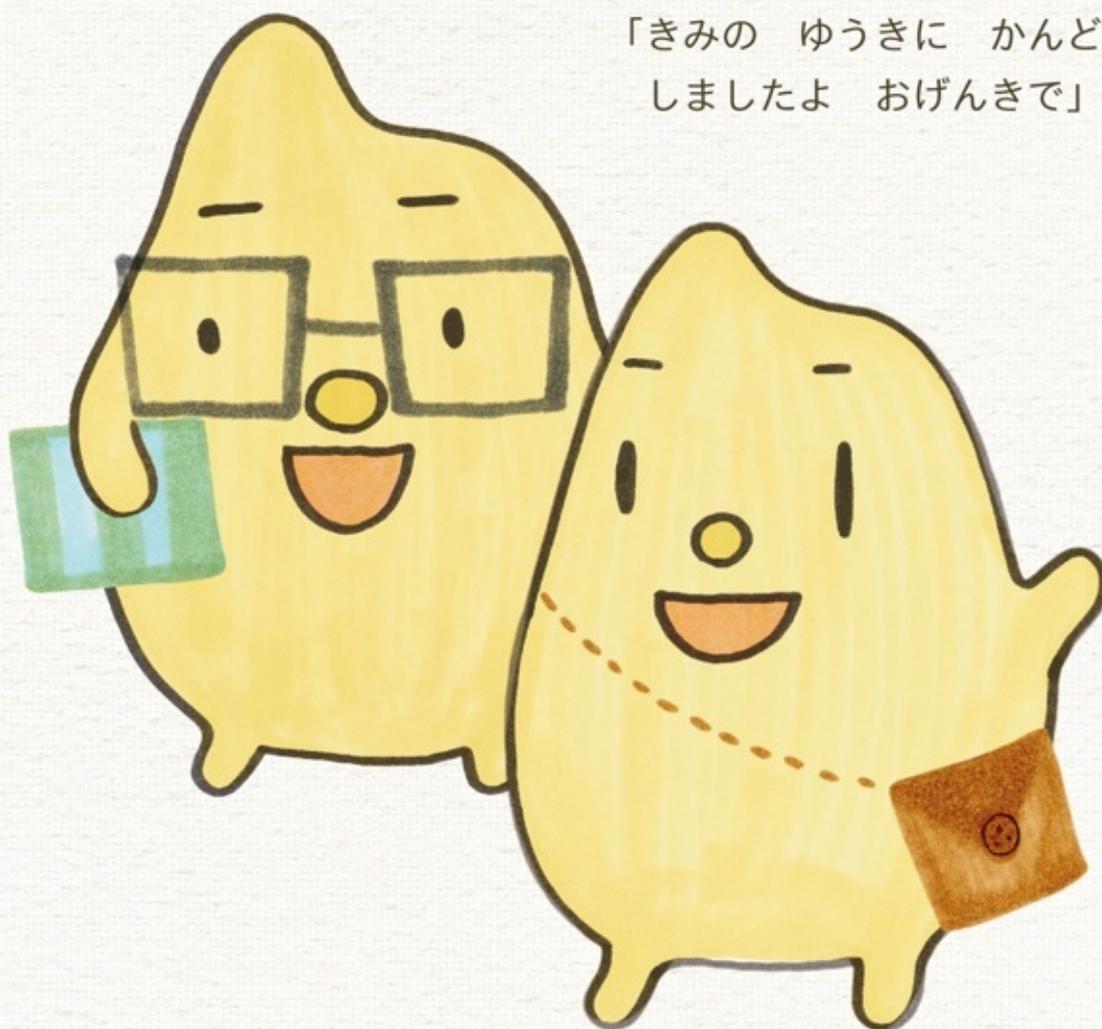






「モチオくん ぼくたちは ごはんコースに いくよ  
かっこいい かがみもちに なってね」

「きみの ゆうきに かんどう  
しましたよ おげんきで」



「うん！ がんばるよ！」



モチオは すこし げんきを とりもどしたようです



「ゴホン！ つぎは きょだい ムシムシの はこに はいって  
もちに なって もらうぞ このなかでは チームワークが  
ひつようじゃ おたがいのことを しんらいしあっていなければ  
ひとつのおもちに なれないぞ」

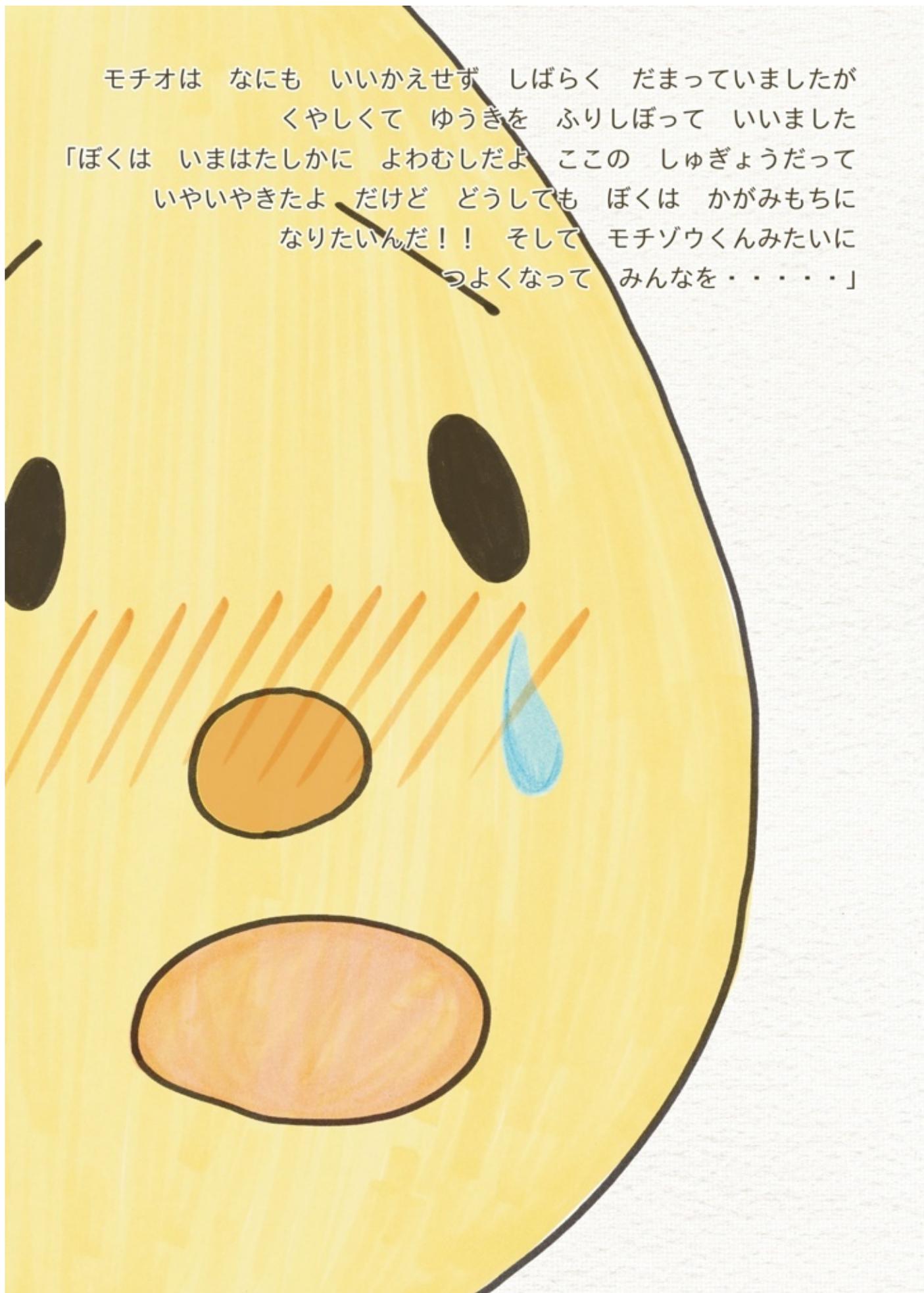
ムシムシのはこは あつくて いきぐるしくて  
あたまが ポーッと してきます

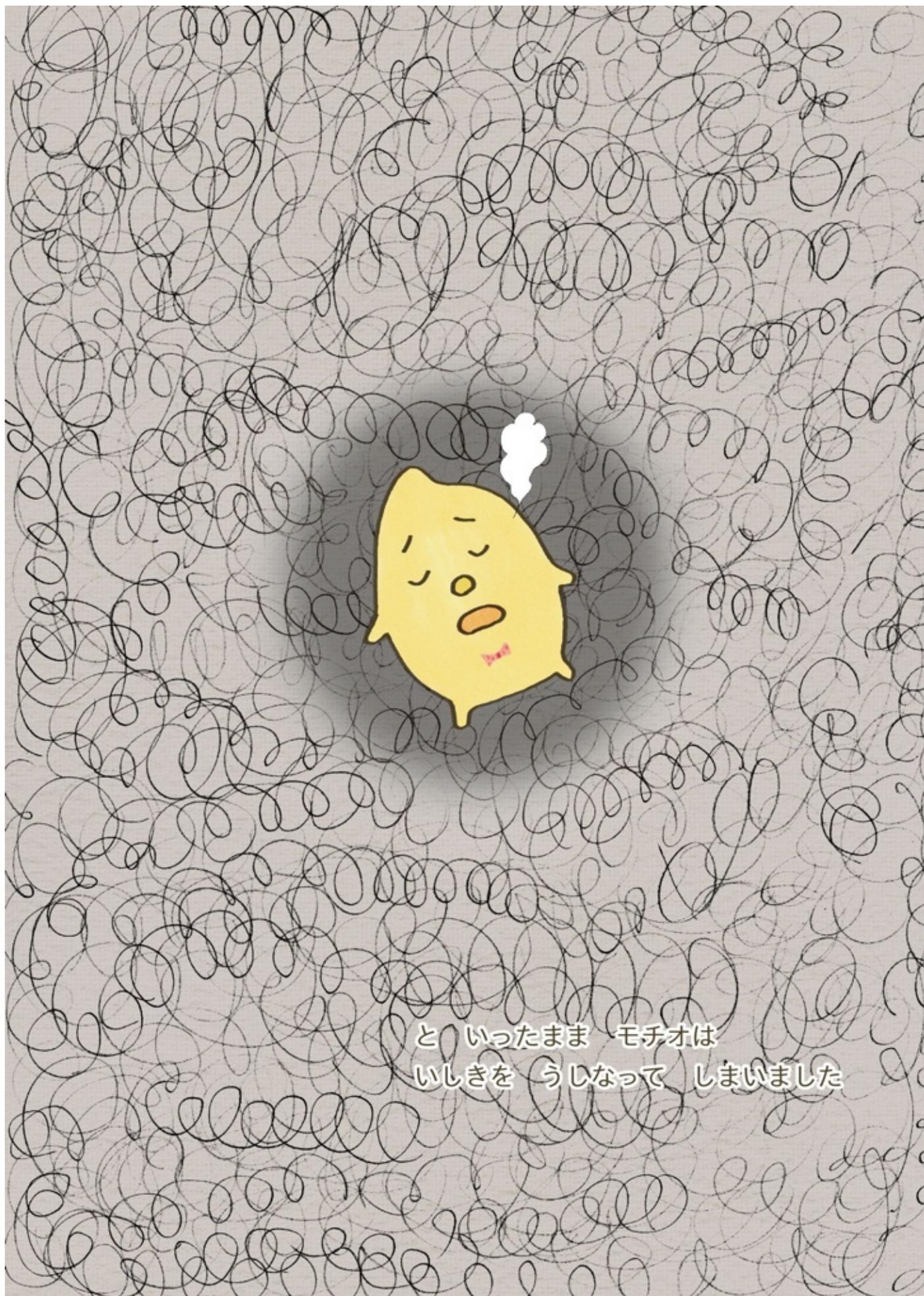


そして モチオの となりには  
あのいじわるな モチゾウが います  
「ふん！ おまえなんか もちになる  
しかくねーんだよ！ はなれるよ！」

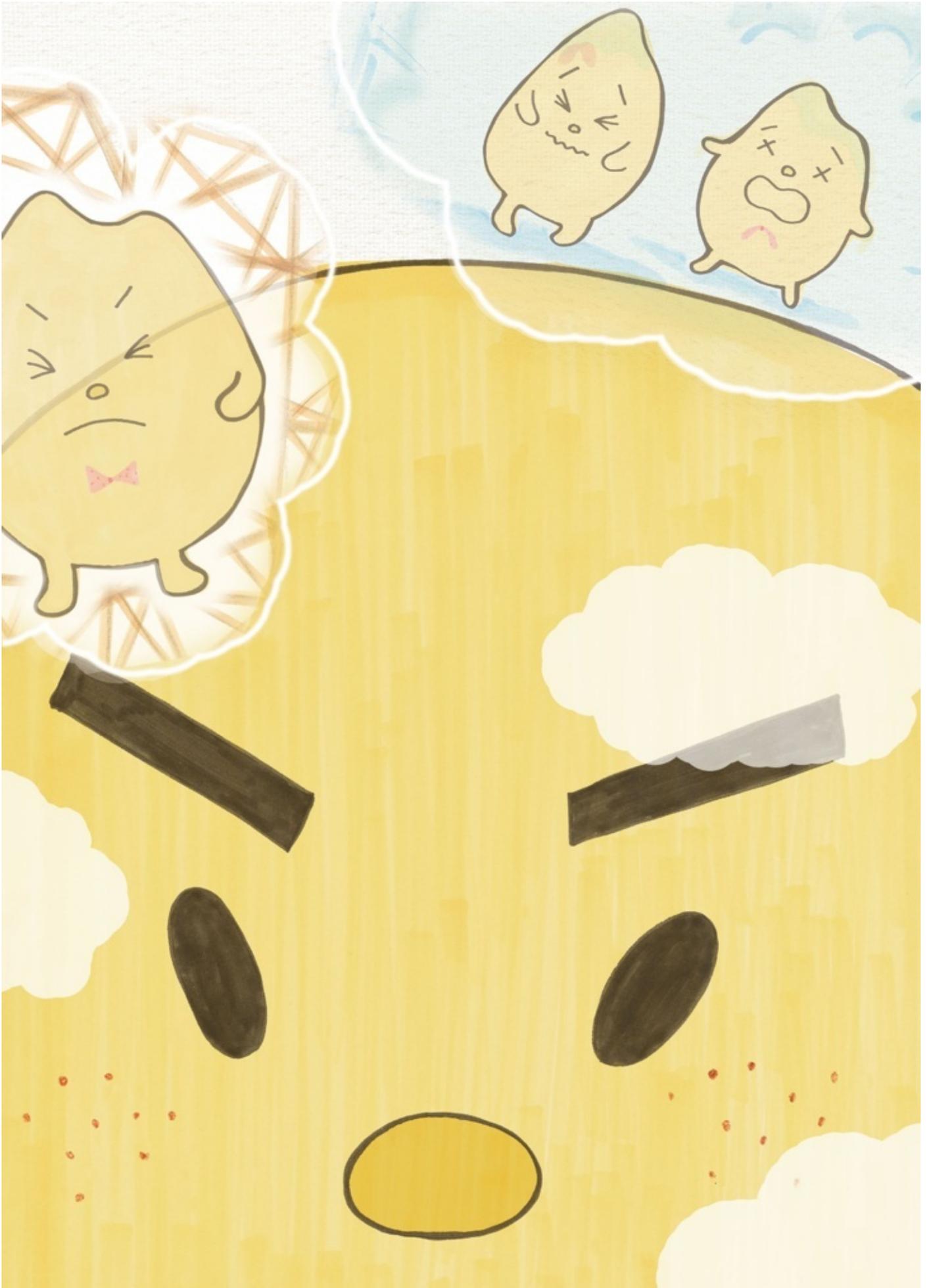


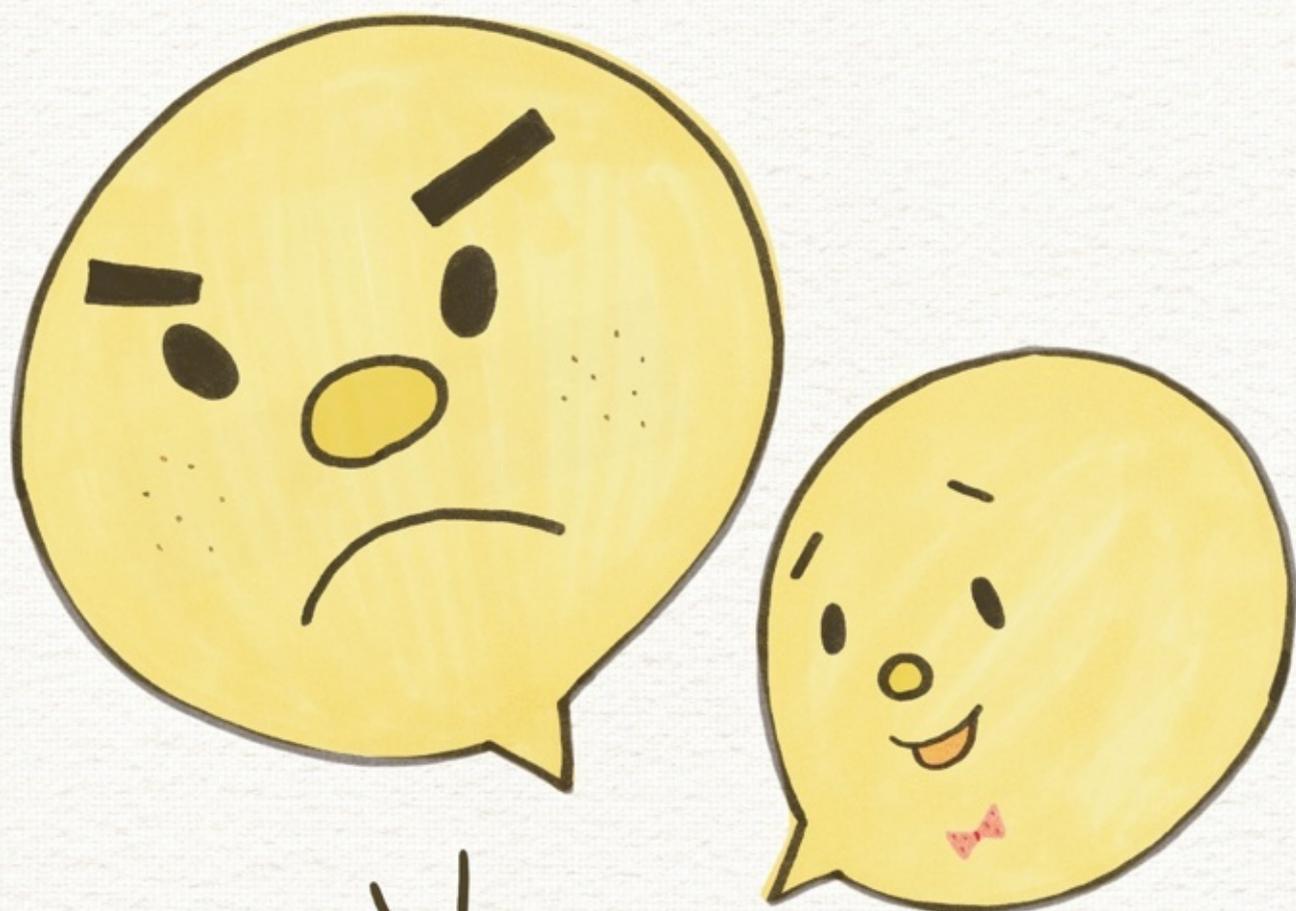
モチオは なにも いいかえせず しばらく だまっていたましたが  
くやしくて ゆうきを ふりしぼって いいました  
「ぼくは いまはたしかに よわむしだよ この しゅぎょうだって  
いやいやきたよ だけど どうしても ぼくは かがみもちに  
なりたいんだ!! そして モチゾウくんみたいにな  
つよくなって みんなを……」





と いったまま モチオは  
いしきを うしなって しまいました





モチオが めざめると そこは うすのなか  
「やっと おきたか おまえが ねてるまに もちに なったんだよ」  
「モチゾウくん！ ぼくのこと みとめて くれたんだね！」

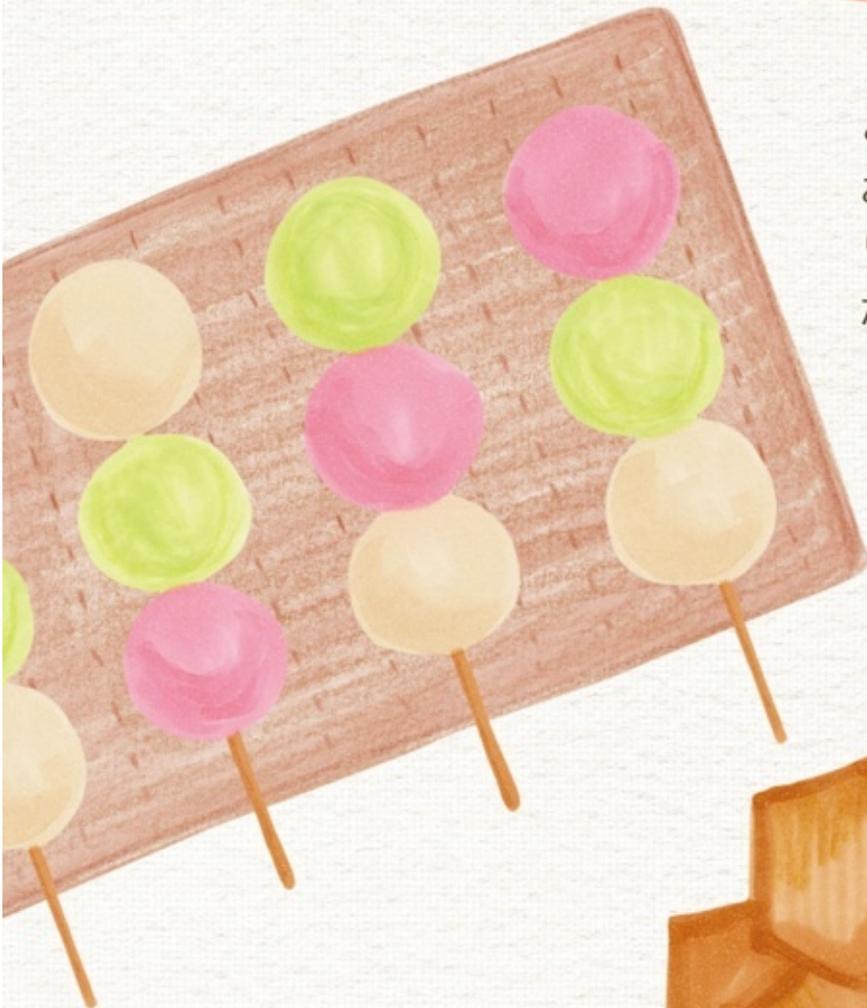


「ゴホン！ おまへたちは つらい しゅぎょうに  
よくたえたな あとは きねで よーくついて  
ねばりを だすのじゃ みんなの  
きょうりょくが あってこそ いまの  
おまへたちが あるんじゃ」





こうして できあがった  
おもちたちは さまざま  
りょうりを つくるために  
たびだつて いきました



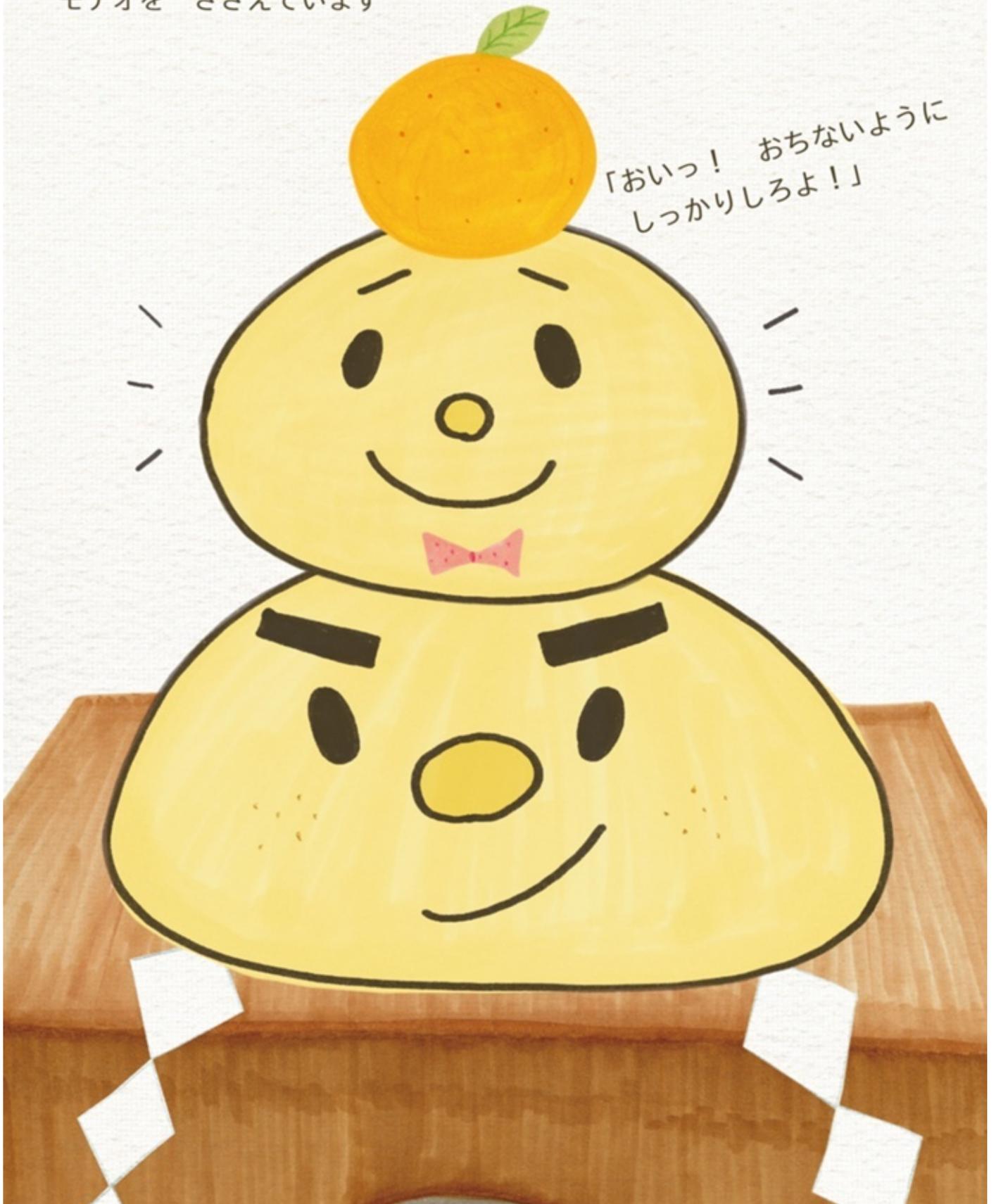
モチミちゃんは かわいい わがしに なりました  
「うふふ かわいい？」



さて モチオは どうなったのかな…？

なんと！ ふたつ かさねた かがみもちの うへのほうに  
いました しかも したには あのモチゾウが  
モチオを ささえています

「おいっ！ おちないように  
しっかりしろよ！」



とこのまに かざられた モチオは とても ほこらしげ  
「かがみびらきのひまで がんばります！」

そう モチオは かがみもちに なれたのです



じかんがたった おもちは みずもちに することも できます  
また らいねんも モチオくんの かがみもちが  
みられると いいですね



おしまい。

モチオくん

<http://p.booklog.jp/book/81429>

著者：やまざきももこ

<http://momonotane.com>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/81429>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/81429>

(C)MOMOnoTANE.2014

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ

本書籍の無断転載／配布は固くお断りします